



オープンキャンパスの様子

本学の新型コロナウイルス感染対策について



保健センター所長／歯学部 准教授 大村 一将

新型コロナウイルス感染症という新興感染症が世界的な問題となり、現在もなお、未だかつてない状況が続いています。北海道医療大学においては、保健センター中心のもと感染対策委員会を設置し、本学が薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部、医療技術学部の6学部で構成される医療系総合大学である特徴を十分に活かし、各分野のエキスパートが同委員会の委員を務めることで多角的な対策を進めております。2月1日に新型コロナウイルス感染症が指定感染症に指定され、本学における対応は2月10日に「本学の対応について（第1報）」を学内に周知することからスタートいたしました。手指衛生、マスク着用などの接触および飛沫感染対策はもとより、留学生も多く在籍していることから海外渡航についても指針を定め感染拡大防止へ努めました。在学生および教職員が3密の回避、身体的距離等の感染対策情報を正しく理解できるよう、感染管理が専門である看護福祉学部の塚本容子教授をはじめとした本学教員の専門性を大いに活かしたガイダンス資料を作成いたしました。同内容は動画でも繰り返し視聴できるようにしています。

やっかいなことに、感染は十分な感染対策を行っ

ていても起こります。感染拡大防止策として、学生および教職員には日々の体調管理を徹底したうえで、発熱等の感染症を疑う症状を含めて何らかの体調変化時には公欠の扱いとすることで、不安なく登校・出勤を停止して療養に専念できる環境を整えました。体調不良の報告は保健センターで情報を集約し、また心理科学部の教員を中心に学生へのメンタルヘルスへの対応方法を定め、保健センター内の学生相談窓口では臨床心理士による相談をオンライン対応等も含めて再整備しました。

様々な制限が段階的に解除される中、本学では学生、教員が学外実習に参加する前には本学の先端研究推進センターにおいて唾液PCR検査が行われております。このような感染対策を行ったうえで、もし感染者が出た場合に備え、すでに各保健所とも十分な情報のやり取りを行い迅速に対応できる体制を作っています。

今後も本学の感染対策は、大学教育の場であるという特徴を活かし、将来の医療人として地域で率先した行動のできる学生の育成へも直結するように進めていきたいと考えています。

CONTENTS

本学の新型コロナウイルス感染対策について	1
教員役職者・新任教員・昇任教員等紹介	2
2020年度入試結果報告	3
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	5
《塚本容子教授インタビュー》 ウィズコロナの時代に、 私たちができること。	6
新型コロナウイルスへの対応	8
OB訪問[言語聴覚療法学科]	10
リハビリテーション科学部レポート 「介護予防フェアinとうべつ」	11
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	